

平成 13 年 4 月 29 日

## 学習院大学馬場で障害のある子どもたちを招き

### 「馬とふれあう会」開催

本日 29 日（祝）、豊島区目白の学習院大学馬場で、保育園、児童館（学童クラブ）、小学校の心障学級および心身障害者福祉センターに通う障害のある子どもたちなどを招き、「馬とふれあう会」が催された。

この「馬とふれあう会」は、同大学馬術部およびその OB 会である<sup>おうあんかい</sup>桜鞍会の主催で、地域の障害を持つ子どもたちに馬とのふれあいを楽しんでもらおうと昨年からはじめられたもの。昨年の 4、11 月に続き今回で 3 回目の開催となる。

学習院で馬術が始められてから 120 年目の一昨年（1999 年）、馬術部 OB 会である桜鞍会では、後輩達を支援するとともに何か地域に貢献できる活動をとの声があがった。当時、動物との触れあいが障害者の精神的セラピーに効果的であることが言われ、ホースセラピーの試みが全国的にもいくつか始められていた状況があり、馬術部部長でボランティア活動にも熱心な川嶋教授が呼びかけ、学生たちがこれに応じて「馬とふれあう会」がスタートすることとなった。

3 回目の開催となった今回は、障害者福祉課が窓口となり、区内の障害児が通う各施設へ参加希望を募り、障害児を持つ 35 家族、42 名の子どもたち（障害児でない兄弟も含む）が集まった。

今日のために、ホースセラピーに取り組んでいる茨城県大洋村から 4 頭のポニーが運ばれ、ボランティアの学生たちのサポートで、子どもたちはひとりずつ順番にポニーの背に乗り、馬場をグルリと回った。初めての乗馬体験に最初は怖がってしまう子どももいたが、学生たちの優しい声かけに、1 周するころには笑顔で手をふるポーズも出て、「楽しかった」「気持ちよかった」と目を輝かせていた。また、馬をなでたり、エサをあげたりと、午後 2 時から約 2 時間、子どもたちは、「お馬さん、かわいいね」と、馬とふれあいのひとときを楽しんだ。

子どもたちを世話する側として今日の活動に参加した学生は約 40 名。今回の開催を中心的にまとめてきた能美さん（同馬術部・4 年生）は、「こうした会を行なうために部員みんなで協力して活動することで、競技会に向けての練習を通じての普段のチームワークとはまた別のチームワークが生まれました。子どもたちがみんな純粋で、楽しそうに馬とふれあってくれる笑顔が何より嬉しいです」と語っていた。

**詳細：桜鞍会理事**